



令和5年度日本の食文化を守り  
そしてつなごう！  
～にっぽん縦断！郷土・伝統料理教室～

報告書

# 目 次

I 事業概要 .....	1
II 調査結果 .....	4
(1) 年代別 .....	4
III 質問項目別 .....	5
(1) あなたは、食育に関心がありますか.....	5
(2) あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか.....	6
(3) あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか .....	8
(4) あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいますか .....	9
(5) あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか...	10
(6) 講義内容は役に立つと思われましたか.....	12
IV まとめ .....	14

## 1 事業概要

事業名："令和5年度日本の食文化を守りそしてつなごう！ ～にっぽん縦断！郷土・伝統料理教室～"

### 1 実施目的

全国に組織を有する食生活改善推進員が「郷土・伝統料理教室」を開催し、伝統食材を始めとした地域の食材を生かした郷土料理や伝統料理、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、食事の食べ方・作法を地域や次世代へ伝えることを目的とする。併せて栄養バランスに優れた「日本型食生活」の実践を推進するため、長年実施している郷土料理教室はもとより、おやこの食育教室を始めとする地域活動においてバランスのよい食生活の啓発と共に「地域の食文化を継承しよう」を実践している食生活改善推進員の知識・技術・経験に基づく料理教室を全国で展開し、地産地消の精神も取り入れた日本の食文化の保護・継承を図る。

さらには、食生活改善推進員が「郷土・伝統料理教室」において、食文化の保護・継承のための食育を推進することで、持続可能なボランティア活動の活発化に向けた環境整備を図る。

### 2 実施主体

一般財団法人 日本食生活協会

### 3 取り組み内容

食文化の保護・継承のための取り組み支援

開催日：令和5年8月～令和6年1月

場所：食生活改善推進員協議会組織を有する全国46道府県・5政令市 150地区

対象者：地域住民約3,000人（150地区×20名）

料理講習会形式（体験学習）

①日本の食文化を守りそしてつなごう！ ～食生活改善推進員による「郷土・伝統料理教室」～

②食育・日本の食文化に関するアンケート調査、参加者へのアンケート調査及び集計を公表

### 4 集計及び報告

令和6年2月末日

### 5 地域ブロック別状況

ブロック	道府県・政令市名
北海道東北	北海道 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東甲信越静	新潟県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、長野県 静岡県、横浜市、川崎市
東海北陸近畿	富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、大阪市
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、 北九州市、福岡市

## 6 調査内容

- (1) 性別
- (2) 年齢（年代別）
- (3) あなたは食育に関心がありますか。 四者択一
- (4) あなたは日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか。 四者択一
- (5) あなたは行事食・郷土料理を次世代（子や孫を含む）、地域などに伝えたことがありますか。  
二者択一
- (6) あなたは産地や生産者を意識して食品を選んでいますか。 四者択一
- (7) あなたは主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。  
四者択一
- (8) 講習内容は役に立つと思われましたか。 四者択一

## 7 調査集計・分析

名古屋学芸大学管理栄養学部公衆栄養学研究室 代表 川崎和彦

令和5年度郷土・伝統料理教室アンケート回収一覧

区市名	アンケート		
	回収数	有効回答数	有効回答率
1 北海道食生活改善推進員協議会	58	50	86.2
2 青森県食生活改善推進員連絡協議会	57	54	94.7
3 岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会	92	87	94.6
4 宮城県食生活改善推進員協議会	106	105	99.1
5 秋田県食生活改善推進協議会	64	62	96.9
6 山形県食生活改善推進協議会	74	73	98.6
7 福島県食生活改善推進連絡協議会	70	63	90.0
8 茨城県食生活改善推進員協議会	41	37	90.2
9 栃木県食生活改善推進員協議会	63	58	92.1
10 群馬県食生活改善推進員連絡協議会	395	375	94.9
11 埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会	54	50	92.6
12 千葉県食生活改善協議会	73	72	98.6
13 神奈川県食生活改善推進団体連絡協議会	54	48	88.9
14 新潟県食生活改善推進委員協議会	141	132	93.6
15 富山県食生活改善推進連絡協議会	57	46	80.7
16 石川県食生活改善推進協議会	81	70	86.4
17 福井県食生活改善推進員連絡協議会	61	58	95.1
18 山梨県食生活改善推進員連絡協議会	167	157	94.0
19 長野県食生活改善推進協議会	60	57	95.0
20 岐阜県食生活改善推進員協議会	105	92	87.6
21 静岡県健康づくり食生活推進協議会	53	49	92.5
22 愛知県食生活改善推進員協議会	60	56	93.3
23 三重県食生活改善推進連絡協議会	77	70	90.9
24 滋賀県健康推進員団体連絡協議会	59	48	81.4
25 京都府食生活改善推進員連絡協議会	59	57	96.6
26 大阪府食生活改善連絡協議会	60	57	95.0
27 兵庫県いずみ会	67	62	92.5
28 奈良県食生活改善推進員連絡協議会	140	126	90.0
29 和歌山県食生活改善推進協議会	47	44	93.6
30 鳥取県食生活改善推進員連絡協議会	45	40	88.9
31 島根県食生活改善推進協議会	126	115	91.3
32 岡山県栄養改善協議会	79	62	78.5
33 広島県食生活改善推進員協議会	67	57	85.1
34 山口県食生活改善推進協議会	56	52	92.9
35 徳島県食生活改善推進協議会	58	52	89.7
36 香川県食生活改善推進連絡協議会	75	71	94.7
37 愛媛県食生活改善推進連絡協議会	58	57	98.3
38 高知県食生活改善推進協議会	82	81	98.8
39 福岡県食生活改善推進連絡協議会	61	50	82.0
40 佐賀県食生活改善推進協議会	70	42	60.0
41 長崎県食生活改善推進協議会	21	20	95.2
42 熊本県食生活改善推進員連絡協議会	62	51	82.3
43 大分県食生活改善推進協議会	60	57	95.0
44 宮崎県食生活改善推進協議会	107	100	93.5
45 鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会	63	62	98.4
46 沖縄県食生活改善推進員連絡協議会	41	40	97.6
47 横浜市食生活等改善推進員協議会	66	62	93.9
48 大阪市食生活改善推進員協議会	67	61	91.0
49 北九州市食生活改善推進員協議会	60	54	90.0
50 川崎市食生活改善推進員連絡協議会	51	44	86.3
51 福岡市食生活改善推進員協議会	39	30	76.9
合 計	3,909	3,575	91.5

## II 調査結果

### (1) 年代別

回答数の内訳は、女性 73.9% (2,643 人)、男性 25.0% (892 人) であり、最も多い年代は 10 歳代 40.8% (1,457 人) 次いで 70 歳代 22.8% (815 人)、 60 歳代 11.8% (422 人) であった。

表 1 性別からみた年代

			性 別			合 計
			男	女	答えたくない	
年代	10歳未満	回答数	60	87	1	148
		割合	6.7%	3.3%	2.5%	4.1%
	10歳代	回答数	657	773	27	1,457
		割合	73.7%	29.2%	67.5%	40.8%
	20歳代	回答数	14	87	0	101
		割合	1.6%	3.3%	0.0%	2.8%
	30歳代	回答数	21	170	1	192
		割合	2.4%	6.4%	2.5%	5.4%
	40歳代	回答数	30	220	0	250
		割合	3.4%	8.3%	0.0%	7.0%
	50歳代	回答数	17	149	1	167
		割合	1.9%	5.6%	2.5%	4.7%
	60歳代	回答数	22	400	0	422
		割合	2.5%	15.1%	0.0%	11.8%
	70歳代	回答数	69	746	0	815
		割合	7.7%	28.2%	0.0%	22.8%
	答えたくない	回答数	2	11	10	23
		割合	0.2%	0.4%	25.0%	0.6%
合 計		回答数	892	2,643	40	3,575
		割合	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%

### III 質問項目別

#### (1) あなたは、食育に関心がありますか

性別によるQ1「あなたは、食育に関心がありますか」の回答では、最も多い回答が男性は「どちらかといえば関心がある」43.2%（385人）女性は「関心がある」56.4%（1,490人）であった。

男女ともに「関心がある」51.9%（1,857人）「どちらかといえば関心がある」39.5%（1,411人）と関心がある人が多く、約9割の回答であった。

なお「第4次食育推進基本計画」の目標「食育に関心を持っている国民の割合」の目標値（令和7年度）90%以上である。

表2 性別からみたQ1「あなたは、食育に関心がありますか」

			性 別			合 計
			男	女	答えたくない	
Q1あなたは、 食育に関心が ありますか。	関心がある	回答数	353	1,490	14	1,857
		割合	39.6%	56.4%	35.0%	51.9%
	どちらかといえば関心があ る	回答数	385	1005	21	1411
		割合	43.2%	38.0%	52.5%	39.5%
	どちらかといえば関心なし	回答数	114	121	3	238
		割合	12.8%	4.6%	7.5%	6.7%
	関心がない	回答数	40	27	2	69
		割合	4.5%	1.0%	5.0%	1.9%
合 計	回答数	892	2,643	40	3,575	
	割合	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%	

次に年代別によるQ1「あなたは、食育に関心がありますか」の回答では、「関心がある」割合が高いのは70歳代（70.2%）次いで60歳代（67.3%）と年代が高くなるにつれ関心が高まる結果となった。

表3 年代別からみたQ1「あなたは、食育に関心がありますか」

		10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	答えたくない	合計
関心がある	回答数	67	510	56	111	147	98	284	572	12	1857
	割合	45.3%	35.0%	55.4%	57.8%	58.8%	58.7%	67.3%	70.2%	52.2%	51.9%
どちらかといえば 関心がある	回答数	62	719	43	75	95	62	126	221	8	1411
	割合	41.9%	49.3%	42.6%	39.1%	38.0%	37.1%	29.9%	27.1%	34.8%	39.5%
どちらかといえば 関心なし	回答数	14	175	1	6	5	7	11	17	2	238
	割合	9.5%	12.0%	1.0%	3.1%	2.0%	4.2%	2.6%	2.1%	8.7%	6.7%
関心がない	回答数	5	53	1	0	3	0	1	5	1	69
	割合	3.4%	3.6%	1.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.2%	0.6%	4.3%	1.9%
合 計	回答数	148	1457	101	192	250	167	422	815	23	3575
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

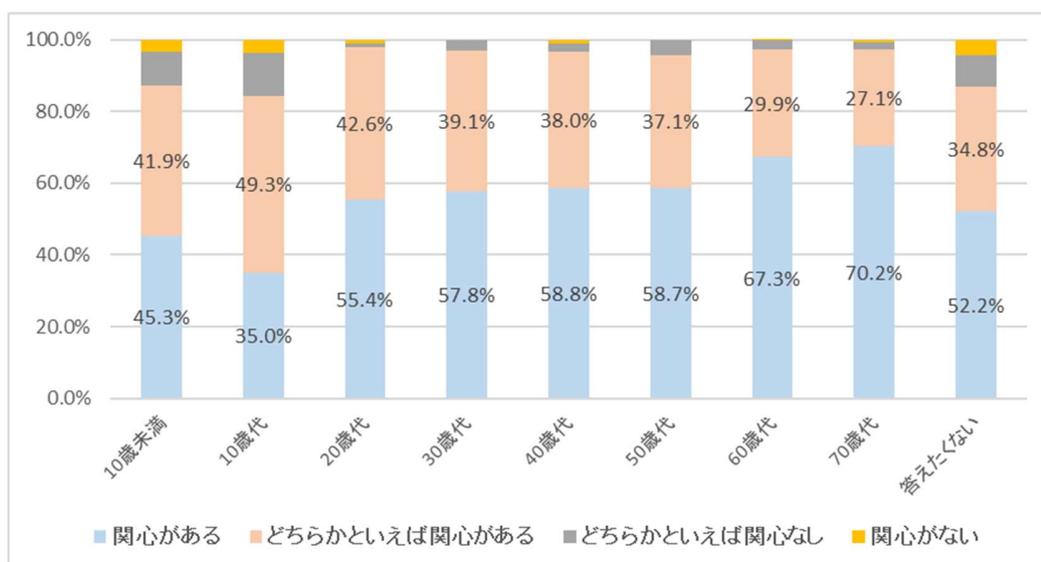


図1 年代別からみたQ1「あなたは、食育に関心がありますか」

(2) あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか

性別による Q2「あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか」の回答では、最も多い回答は、「季節（3か月）に1回程度」38.5%（1,375人）（内訳：男性35.4%（316人）女性39.6%（1,046人））であった。

次いで「月に1回程度」26.6%（952人）「月に2～3回程度」25.9%（927人）であった。

なお「第4次食育推進基本計画」の目標「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合」の目標値（令和7年度）50%以上である。

今回の調査結果では、「週に1～2回程度」「月に2～3回程度」「月に1回程度」と回答した人は61.5%（2,200人）であり、第4次食育推進基本計画の目標数値より高い割合であった。

表4 性別からみたQ2「あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか」

			性別			合計
			男	女	答えたくない	
Q2 あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか。	週に1～2回程度	回答数	97	219	5	321
		性別 (%)	10.9%	8.3%	12.5%	9.0%
	月に2～3回程度	回答数	236	683	8	927
		性別 (%)	26.5%	25.8%	20.0%	25.9%
	月に1回程度	回答数	243	695	14	952
		性別 (%)	27.2%	26.3%	35.0%	26.6%
	季節（3か月）に1回程度	回答数	316	1,046	13	1,375
		性別 (%)	35.4%	39.6%	32.5%	38.5%
	合計	回答数	892	2643	40	3,575
		性別 (%)	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%

次に年代別によるQ2「あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか」の回答では、全年代を通して「季節（3か月）に1回程度」が最も多い回答であるものの、第4次食育推進基本計画の目標数値（月1回以上50%以上）に満たない年代は20歳代（53.5%）、30歳代（58.9%）、40歳代（53.6%）であった。

表5 年代別からみたQ2「あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか」

		10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	答えたくない	合計
週に1~2回程度	回答数	19	119	5	9	8	11	42	108	0	321
	割合	12.8%	8.2%	5.0%	4.7%	3.2%	6.6%	10.0%	13.3%	0.0%	9.0%
月に2~3回程度	回答数	36	440	19	26	40	43	103	219	1	927
	割合	24.3%	30.2%	18.8%	13.5%	16.0%	25.7%	24.4%	26.9%	4.3%	25.9%
月に1回程度	回答数	38	427	23	44	68	38	106	197	11	952
	割合	25.7%	29.3%	22.8%	22.9%	27.2%	22.8%	25.1%	24.2%	47.8%	26.6%
季節（3か月）に1回程度	回答数	55	471	54	113	134	75	171	291	11	1,375
	割合	37.2%	32.3%	53.5%	58.9%	53.6%	44.9%	40.5%	35.7%	47.8%	38.5%
合計	回答数	148	1,457	101	192	250	167	422	815	23	3,575
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

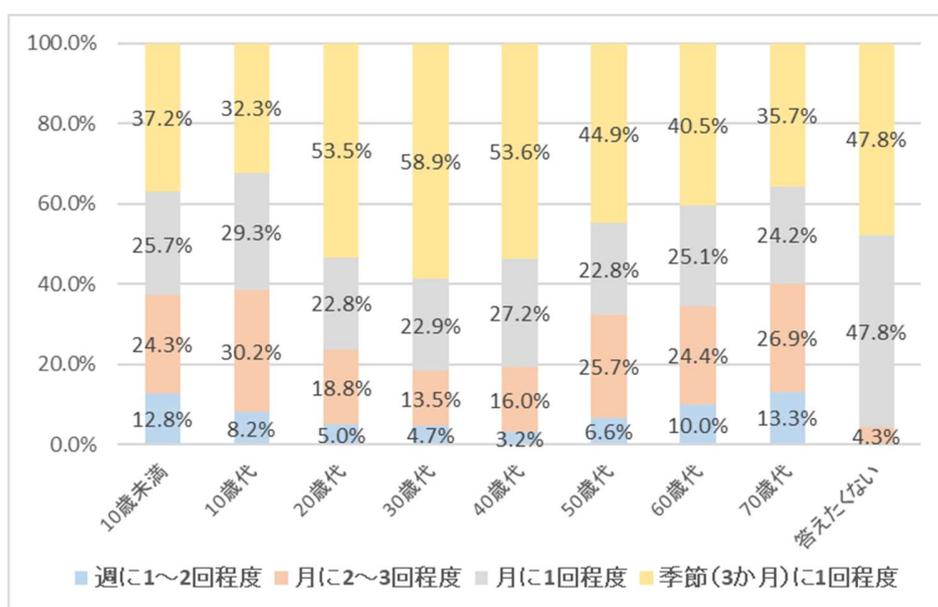


図2 年代別からみた

Q2「あなたは、あなたは、日ごろ行事食・郷土料理をどのくらいの頻度で食べていますか」

(3) あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか

性別によるQ3「あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか」の回答では、男女ともに最も多い回答は「伝えたことがない」60.5%(2,163人)（内訳：男性83.4%（744人）女性52.5%（1,388人））であった。

なお「第4次食育推進基本計画」の目標「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合」の目標値（令和7年度）55%以上である。

表6 性別からみたQ3「あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか」

			性別			合計
			男	女	答えたくない	
Q3 あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか。	伝えたことがある	回答数	148	1,255	9	1,412
		性別 (%)	16.6%	47.5%	22.5%	39.5%
	伝えたことがない	回答数	744	1,388	31	2,163
		性別 (%)	83.4%	52.5%	77.5%	60.5%
合計		回答数	892	2643	40	3,575
		性別 (%)	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%

次に年代別によるQ3「あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか」の回答では、50歳代以上の年代で「伝えたことがある」が「伝えたことがない」を上回っていた。

また「伝えたことがある」の割合も年代が高くなりにつれ、高くなっていった。

表7 年代別からみたQ3「あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか」

		10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	答えたくない	合計	
伝えたことがある	回答数	29	226	14	90	117	97	273	559	7	1,412	
	割合	19.6%	15.5%	13.9%	46.9%	46.8%	58.1%	64.7%	68.6%	30.4%	39.5%	
伝えたことがない	回答数	119	1,231	87	102	133	70	149	256	16	2,163	
	割合	80.4%	84.5%	86.1%	53.1%	53.2%	41.9%	35.3%	31.4%	69.6%	60.5%	
合計		回答数	148	1,457	101	192	250	167	422	815	23	3,575
		割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

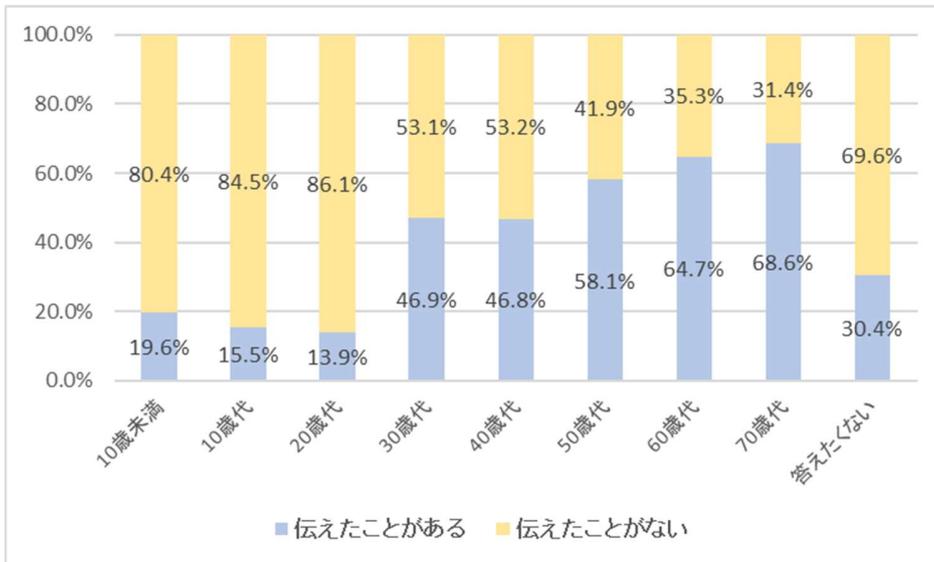


図3 年代別からみたQ3「あなたは、行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことはありますか」

(4) あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか

性別による Q4「あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか」の回答では、男女ともに最も多い回答は「ときどき選んでいる」44.9%(1,605人) (内訳:男性 38.5%(343人) 女性 47.2%(1,248人))であった。次いで男性では「あまり選んでいない」28.8%(257人) 女性では「いつも選んでいる」29.6%(783人)と異なる結果となった。

なお「第4次食育推進基本計画」の目標「産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合」の目標値(令和7年度)80%以上である。

表8 性別からみたQ4「あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか」

		性別			合計	
		男	女	答えたくない		
Q4 あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか。	いつも選んでいる	回答数	116	783	5	904
		性別 (%)	13.0%	29.6%	12.5%	25.3%
	ときどき選んでいる	回答数	343	1,248	14	1,605
		性別 (%)	38.5%	47.2%	35.0%	44.9%
	あまり選んでいない	回答数	257	459	12	728
		性別 (%)	28.8%	17.4%	30.0%	20.4%
	まったく選んでいない	回答数	176	153	9	338
		性別 (%)	19.7%	5.8%	22.5%	9.5%
合計		回答数	892	2,643	40	3,575
		性別 (%)	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%

次に年代別によるQ4「あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか」の回答では、20歳代以上の年代で「いつも選んでいる」「ときどき選んでいる」と回答した人が7割を超えていた。

表9 年代別からみたQ4「あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか」

		10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	答えたくない	合計
いつも選んでいる	回答数	22	133	16	58	79	61	169	360	6	904
	割合	14.9%	9.1%	15.8%	30.2%	31.6%	36.5%	40.0%	44.2%	26.1%	25.3%
ときどき選んでいる	回答数	59	538	56	103	142	89	221	390	7	1,605
	割合	39.9%	36.9%	55.4%	53.6%	56.8%	53.3%	52.4%	47.9%	30.4%	44.9%
あまり選んでいない	回答数	36	513	25	28	22	15	30	55	4	728
	割合	24.3%	35.2%	24.8%	14.6%	8.8%	9.0%	7.1%	6.7%	17.4%	20.4%
まったく選んでいない	回答数	31	273	4	3	7	2	2	10	6	338
	割合	20.9%	18.7%	4.0%	1.6%	2.8%	1.2%	0.5%	1.2%	26.1%	9.5%
合計	回答数	148	1,457	101	192	250	167	422	815	23	3,575
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

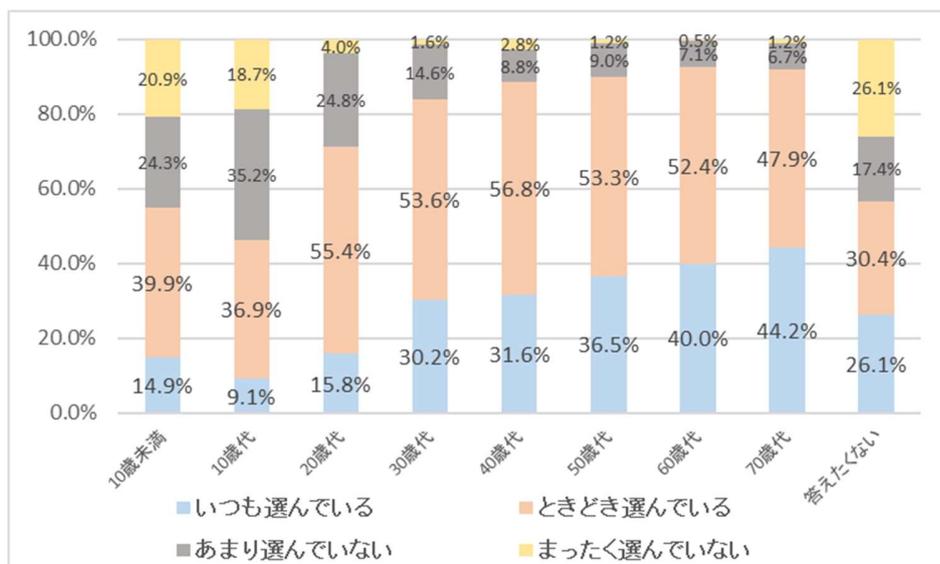


図4 年代別からみたQ4「あなたは、産地や生産者を意識して食品を選んでいきますか」

(5) あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか

性別によるQ5「あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか」の回答では、男女ともに最も多い回答は「ほぼ毎日」48.1%(1,719人)（内訳：男性49.4%（441人）女性47.6%（1,258人））であった。次いで男女ともに「週に4～5日」27.6%（987人）（内訳：男性23.0%（205人）女性29.4%（777人））であった。

なお「第4次食育推進基本計画」の目標「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べ

ている国民の割合」の目標値（令和7年度）50%以上である。

表10 性別からみたQ5「あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか」

		性別			合計	
		男	女	答えたくない		
Q5 あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。	ほぼ毎日	回答数	441	1,258	20	1,719
		性別 (%)	49.4%	47.6%	50.0%	48.1%
	週に4~5日	回答数	205	777	5	987
		性別 (%)	23.0%	29.4%	12.5%	27.6%
	週に2~3日	回答数	179	501	10	690
		性別 (%)	20.1%	19.0%	25.0%	19.3%
	ほとんどない	回答数	67	107	5	179
		性別 (%)	7.5%	4.0%	12.5%	5.0%
	合計	回答数	892	2,643	40	3,575
		性別 (%)	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%

次に年代別によるQ5「あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか」の回答では、「ほぼ毎日」と回答した割合が高かったのは「70歳代」54.5%（444人）次いで「60歳代」53.6%（226人）「10歳代」49.1%（716人）であった。

第4次食育推進計画の目標値50%以上より高かった割合を示した年代は、70歳代、60歳代であった。

表11 年代別からみた

Q5「あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか」

		10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	答えたくない	合計
ほぼ毎日	回答数	58	716	35	64	94	72	226	444	10	1,719
	割合	39.2%	49.1%	34.7%	33.3%	37.6%	43.1%	53.6%	54.5%	43.5%	48.1%
週に4~5日	回答数	40	376	35	61	65	51	129	227	3	987
	割合	27.0%	25.8%	34.7%	31.8%	26.0%	30.5%	30.6%	27.9%	13.0%	27.6%
週に2~3日	回答数	36	280	21	53	74	35	56	129	6	690
	割合	24.3%	19.2%	20.8%	27.6%	29.6%	21.0%	13.3%	15.8%	26.1%	19.3%
ほとんどない	回答数	14	85	10	14	17	9	11	15	4	179
	割合	9.5%	5.8%	9.9%	7.3%	6.8%	5.4%	2.6%	1.8%	17.4%	5.0%
合計	回答数	148	1,457	101	192	250	167	422	815	23	3,575
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

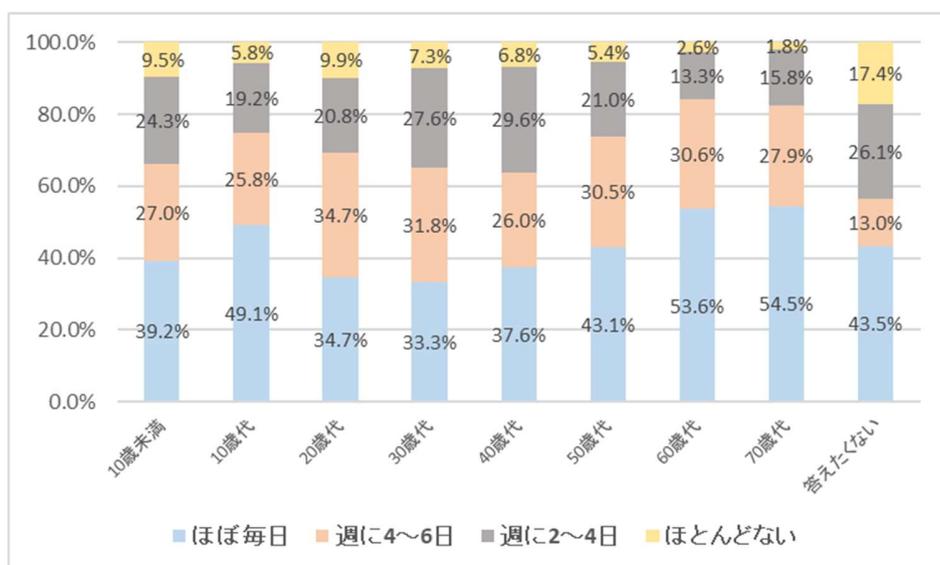


図5 年代別からみた

Q5「あなたは、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上あるのは、週に何日ありますか」

(6) 講義内容は役に立つと思えましたか

性別による Q6「講義内容は役に立つと思えましたか」の回答では、男女ともに最も多い回答は「非常に役に立つ」54.6%(1,951人) (内訳：男性48.4%(432人) 女性56.9%(1,505人))であった。次いで男女ともに「役立つ」40.4%(1,444人) (内訳：男性41.9%(374人) 女性39.6%(1,047人))であった。

表12 性別からみたQ6「講義内容は役に立つと思えましたか」

		性別			合計	
		男	女	答えたくない		
Q6 講義内容は役に立つと思えましたか。	非常に役に立つ	回答数	432	1,505	14	1,951
		性別 (%)	48.4%	56.9%	35.0%	54.6%
	役立つ	回答数	374	1,047	23	1,444
		性別 (%)	41.9%	39.6%	57.5%	40.4%
	どちらともいえない	回答数	70	84	3	157
		性別 (%)	7.8%	3.2%	7.5%	4.4%
	思わない	回答数	16	7	0	22
		性別 (%)	1.8%	0.3%	0.0%	0.6%
合計		回答数	892	2,643	40	3,575
		性別 (%)	25.0%	73.9%	1.1%	100.0%

次に年代別によるQ6「講義内容は役に立つと思えましたか」の回答では、全年代を通じて「非常に役に立つ」「役に立つ」の割合が高かった。

表13 年代別からみたQ6「講義内容は役に立つと思えましたか」

		10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	答えたくない	合計
非常に役に立つ	回答数	73	776	78	114	164	104	221	411	10	1951
	割合	49.3%	53.3%	77.2%	59.4%	65.6%	62.3%	52.4%	50.4%	43.5%	54.6%
役立つ	回答数	50	584	23	73	80	55	185	383	11	1,444
	割合	33.8%	40.1%	22.8%	38.0%	32.0%	32.9%	43.8%	47.0%	47.8%	40.4%
どちらともいえない	回答数	16	86	0	5	5	8	16	20	1	157
	割合	10.8%	5.9%	0.0%	2.6%	2.0%	4.8%	3.8%	2.5%	4.3%	4.4%
思わない	回答数	9	11	0	0	1	0	0	1	1	23
	割合	6.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.1%	4.3%	0.6%
合計	回答数	148	1,457	101	192	250	167	422	815	23	3,575
	割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

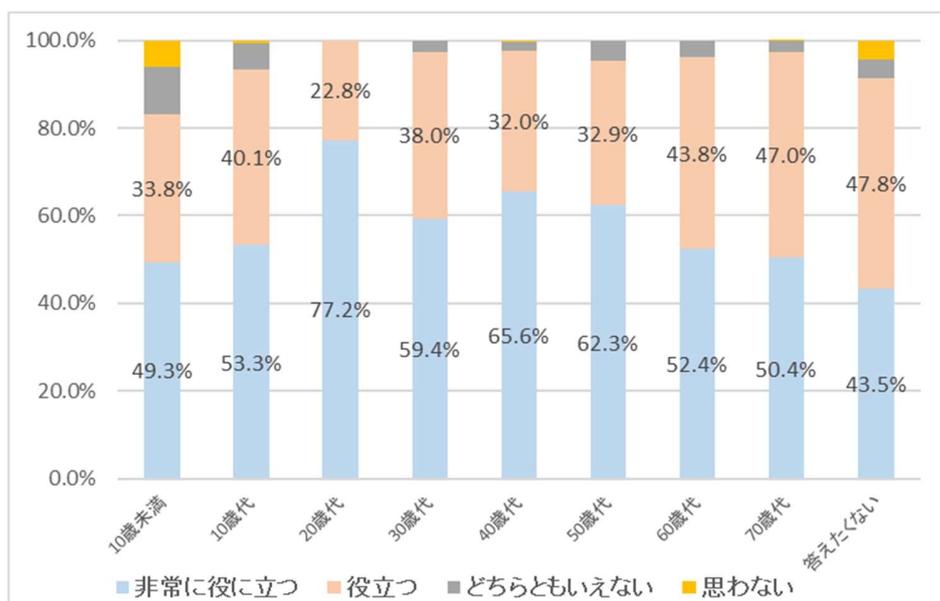


図6 年代別からみたQ6「講義内容は役に立つと思えましたか」

#### IV まとめ

本事業は、郷土・伝統料理の継承を目的に全国の 51 食生活改善推進員協議会組織が「郷土・伝統料理教室」を開催し、食生活改善推進員の知識、技術、経験による知恵を受講した人の食に関する状況及び今回の教室をどのように受け止めたかを簡単であるがまとめた。

食に関する状況として「食育に関心がある」と回答した人は男女ともに約 9 割の回答であり、女性が男性より「関心がある」と回答した人が約 17 ポイント高かった。また年代が高くなるにつれ食育への関心が高まっていた。

「日ごろ行事食・郷土料理を食べる頻度」の回答では、男女ともに最も多かったのが「季節（3 か月）に 1 回程度」であり、日本の気候である四季に応じた伝統的な行事食や郷土料理が日常生活の中に食文化として存在していることの表れと受け止めた。

「行事食・郷土料理を次世代や地域で伝えたことの有無」の回答では、「伝えたことがない」が全体の 6 割を占めた。伝えたことがない理由は今回の結果では不明であるが、今回の事業を通じて伝統・郷土料理を食文化として伝えることの大切さに気づく機会になったことを期待したい。

「産地や生産者を意識した食品選択」の回答では、男性は選んでいる人と選んでいない人が拮抗しているのに対し、女性は 8 割に近い人が選んでいる結果であった。男女によって、食品選択で重視するものの違いを知ることができた。

「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上あるのは、週に何日か」の回答では、「ほぼ毎日」が約 5 割であり、受講した人は日ごろから主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を意識している人であるように思えた。

教室の「講義内容は役に立つと思いましたが」の問いでは、受講した人の 9 割が「非常に役に立つ」「役立つ」と回答した結果であった。全国の食生活改善推進員が日ごろの活動で得た知識、技術、経験による知恵に工夫を凝らし、郷土・伝統料理教室において伝えたいことが受講する人に伝わった結果であると受け止めた。